HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語における迂言的進行形
Author(s)	山藤, 顕
Citation	独語独文学研究年報, 44, 89-104
Issue Date	2018-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70506
Type	departmental bulletin paper
File Information	44_05_sando.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語における迂言的進行形

山藤　顕

1. 序論

英語以外のゲルマン語は、迂言形を用いても単純形を用いても進行相を表すことが可能である。このうち、迂言形においては、いくつかの進行形が見られる。ゲルマン語内では、hold や busy といった迂言形の核となる語彙が共通することが多く、それらの語彙を基準にして進行形を分類することが可能である。本稿では、アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語を例に、西ゲルマン語における迂言形による進行形の分類を試みる。

迂言形による進行形の文法化の程度は各言語で様々である。核となる語彙の意味の希薄化及びその進行形が他の進行形に比べ高頻度で用いられる際に、その進行形の文法化が進んでいるといえる。本稿で提唱する述語形容詞進行形 (predicate adjective progressive) では、各言語における文法化の差が顕著に現れる。アフリカーンス語の述語形容詞進行形は核となる語彙である busy の意味が希薄化しており、文法化が進んでいる。述語形容詞進行形は、先行研究においてあまり重要視されていない。Ebert / Hoekstra (1996)は、この述語形容詞進行形に一切言及していない。Ebert (2000)においては、述語形容詞進行形に言及してはいるものの、他の進行形に比べ、分析は十分ではない。他の先行研究においても、述語形容詞進行形に焦点を置いた研究はあまり存在しない。ゲルマン語の進行形において、この構文の正確な分類・分析は必要不可欠である。

本稿の構成は、以下の通りである。2 節では、ゲルマン語の進行形の分類について先行研究を紹介し、不備を指摘する。3 節では、筆者が分類した迂言形による進行形表現の概要を説明し、アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語の 3 言語間での比較を行う。4 節では、筆者が分類した 3 構文間での頻度を示す。5 節では、アフリカーンス語で特徴的な述語形容詞進行形の事例を紹介する。6 節では、本稿のまとめを行う。

2. ゲルマン語の進行形における先行研究

本稿では、ゲルマン語の進行形における先行研究として Donaldson (1993)・ Ebert / Hoekstra (1996)・Ebert (2000)の 3 つを取り上げる。Donaldson (1993)は、アフリカーンス語のみを取り上げており、Ebert / Hoekstra (1996)と Ebert (2000)は、ゲルマン語の言語対照を行っている。

2.1 Donaldson (1993)

Donaldson (1993)は、アフリカーンス語における進行形を 3 つに分類している。

(1) afr. Ek lê en slaap.
I lay and sleep-INF
私は寝ている[1]

Donaldson (1993: 220)

[1] 本稿における和訳は、特別な注がない限り、筆者が行ったものである。

(2) afr. Sy was ’n boek aan die lees.

she was a book at the read-INF

彼女は本を読んでいる

Donaldson (1993: 221)

(3) afr. Ek is besig om ’n brief te skryf.

I am busy C a letter to write-INF

私は手紙を書いている

Donaldson (1993: 222)

Donaldson (1993: 220-221)は、これら 3 つの構文に対して具体的な構文名を提示していない。(1)のような構文は、「lê, loop, sit, staan から形成される進行形」、(2)のような構文は、「wees + aan + die + verb から形成される進行形」、(3)のような構文は「besig wees te + verb から形成される構文」と記述している。また、各構文の使い分けに関しては明示していない。進行を表す特徴的な要素としては、(1)では主語の姿勢を表す動詞である lê (eng. *lay*)を、(2)では前置詞である aan を、(3)では形容詞 besig (eng. *busy*)をそれぞれ用いていることである。

2.2 Ebert/Hoekstra (1996)

ゲルマン語の迂言形による進行形を、Ebert/Hoekstra (1996)は 2 種類に分類した。一方は姿勢動詞進行形(postural / posture verb construction)であり、もう一方は前置詞句進行形 (prepositional progressive) である。Ebert / Hoekstra (1996)が分類した表を以下の表 1・2 に引用する。

表 1: ゲルマン語の姿勢動詞進行形の分類 Ebert / Hoekstra (1996: 94)[2]

		Ⅰ	**Ⅱ**
		postV + to + VN	**postV + and + finV**
デンマーク語		-	sidder og + finV *sits and*
低地ドイツ語		-	sit un + finV *sits and*
北フリジア語	モーリング方言	sätj tu + VN *sits to*	sät än + finV *sits and*
	ヴィーディングヒルデ方言	sät tu + VN *sits to*	sät än + finV *sits and*
	フェリング・エームラング方言	sat tu + VN *sits to*	(sat an + finV) *sits and*
西フリジア語		sit te + VN *sits to*	
オランダ語		zit te + VN *sits to*	

2 表の中の言語名は筆者が日本語に改めたものである。

表 2: ゲルマン語の前置詞句進行形 Ebert / Hoekstra (1996: 94)

		is in/at the + VN	**is at to + VN**	**is at and + INF**	**is at and + finV**	**is thereat NP to + VN**
デンマーク語			er ved at *is at to*			
低地ドイツ語		is an't *is on+DEF*	is bi to *is at to*	is bi un *is at and*		
北フリジア語	ヴィーディング ヒルデ方言	äs oon't *is in+DEF*	äs bai tu *is at to*	äs bai än *is at and*		äs (deer)bai ... tu *is thereat to*
	モーリング方言	-	äs bai tu *is at to*	äs bi an *is at and*		
	フェリング・エームラング方言	as uun't *is in+DEF*	(as bi tu) *is at to*		(as bi an + finV) *is at and*	(as diarbi ...tu) *is thereat to*
西フリジア語			is oan't *is on+DEF*	-		
オランダ語			is aan het *is on the*	-		
ドイツ語 ラインラント方言		ist am *is on+DEF*	-			
ドイツ語		ist am,(ist beim) *is on+DEF*	-			(ist dabei ...zu) *is thereat to*

Ebert / Hoekstra(1996)が対象とする言語は、ほとんどが西ゲルマン語である。北ゲルマン語はデンマーク語しか扱われていないため、ゲルマン語全体の進行形というよりは、西ゲルマン語における進行形の分類と言える。

2.3 Ebert (2000)

Ebert (2000)は、ゲルマン語における進行形を姿勢動詞進行形 (I)・前置詞句進行形 (IIa・IIb)・HOLD construction (III)・BUSY construction (IV)の 4 種類に分類している。姿勢動詞進行形と前置詞句進行形は、Ebert / Hoekstra (1996: 94)で述べていたものと同一である。Ebert (2000)が分類した表を以下の表 3 で引用する。

表 3: ゲルマン語の迂言形における進行形 Ebert (2000: 607)

	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲ	Ⅳ
	POS	**PREP**	**bei**	**HOLD**	**BUSY**
アイスランド語	sittur og *sits and*	er að *is to*			
スウェーデン語	sitter och sits and			hålla på oh / att *hold upon and / to*	er i färd med att *ist in Fahrt mit zu*[3]
デンマーク語	sidder og *sits and*	er ved at *is at to*			er i gang med *ist in Gang mit*[3]
北フリジア語 ヴィーディング ヒルデ方言	sät to / än *sits to / and*	äs oon't *is in+DEF*	äs bai to / än *is at to / and*		
北フリジア語 フェリング・エームラング方言	sat tu *sits to*	as uun't *is in+DEF*	as bi tu / an *is at to / and*		
西フリジア語	sit te *sits to*	is oan't *is on+DEF*			is oan 'e gong mei *ist an+DEF Gang mit*[3]
オランダ語	zit te *sits to*	is aan het *is on the*			is bezig te *is busy to*
ドイツ語	-	ist am *is on+DEF*	ist beim *is at+DEF*		ist dabei zu *is thereat to*
チューリッヒドイツ語	-	isch am *is on+DEF*			isch draa z' *is thereat to*
フェーロー語	sit og *sits and*	er og *is and*			er fáast við at *is get-st*[4] *with to*
ノルウェー語	står og *sits and*			holde på (med) *hold upon with*	
イディッシュ語	-			halt in *holds in*	
低地ドイツ語	sit un *sits and*	is an't *is on+DEF*	is bii un *is at and*		

Ebert / Hoekstra (1996)で前置詞句進行形として扱われている「is thereat NP to + VN」の一部やその先行研究で扱われていない構文を、Ebert (2000)はBUSY constructionと分類している。Ebert (2000)では、表 1で「is thereat NP to +VN」に分類されているドイツ語の構文 (ist dabei …zu)を BUSY construction に分類している。一方で、Ebert / Hoekstra (1996)で扱われていた北フリジア語ヴィーディングヒルデ方言やフェリング・エームラング方言の「is threat NP to +VN」は Ebert (2000)では取り上げられていない。

3 スウェーデン語・デンマーク語・西フリジア語の BUSY construction において、英語のグロスで記述することが困難な箇所(sw. *färd*, dan. *gang*, fry. *gong*)がある。そのため、これらの箇所のグロスは英語より記述が容易であるドイツ語を採用している。

4 fáast は、fáa-st と形態素を分けることができる。この場合、fáa (eng. get)は不定詞となる。-st に関しては、Lockwood (1977: 135)によると、再帰・相互・受動のいずれかの意味を表す。ただし、この構文において-st は再帰・相互・受動のいずれかであると判断することが困難である。グロスの表現として適切なものが見当たらないため、表中には便宜上-st としている。また、以下の文にあるように「er fáast við at」における er (eng. *is*)は不要である。

fr, Eg fáist við at byggja mær **hús, ...**

I get-st with to build REFL house
私は家を建てている

Joensen, Næs, Samuelsen (1983: 96)

2.4 先行研究の問題点

Ebert(2000: 615)は BUSY construction に関して、表に挙げるだけでこの構文に関する説明をほとんどしてない。以下のように説明をし、用例を紹介しているだけである。

> *The 'busy' -construction listed under IV are explicit means of indicating that a person is in the process of doing something. They combine only with agentive verbs, as do the PREP-constructions under IIb.*
> 「表 IV(筆者注：本稿 2.3 表 3 の分類 IV のこと)に分類されている'busy' -construction は、人が何かを行っている最中であると明示しているものである。この構文は、前置詞句進行形のように、動作主動詞としか結びつくことができない。」

(4) a. dan. *Han er i gang med at sove.
he is in trip with to sleep-INF
b. nl. *Hij is bezig te slapen.
he is busy to sleep-INF
c. feröö m. *Hi as diarbi tu sliapen / *bi tu sliapen
he is thereby to sleepINF by to sleep-INF
d. dt. *Er ist dabei zu schlafen / *beim Schlafen.
he is thereby to sleep P+DEF sleeping-VN
彼は眠っている
Ebert (2000: 615)

(4a-d)は不定詞に sleep が現れている例である。少なくとも、上記の例に挙げられているデンマーク語・オランダ語・北フリジア語フェリング・エームラング方言・ドイツ語の 4 言語において、sleep は動作主性を表す動詞としては判断し難い。そのため、Ebert (2000)が主張するように、BUSY construction は前置詞句進行形と似たような構文であるといえる。

その一方で、ゲルマン語の中でも、アフリカーンス語の BUSY construction に関しては、非動作主も主語として現れることができる。

(5) afr. Sy neus is ook besig om langer te word
his nose was also busy C longer to become
痛みでさえ引いていっている
Rowling (2000b: 147)

(5)では、使われている語からしてもオランダ語と同じ構文に属する。この文では、不定詞に word (eng. *become*)が現れている。Ebert (2000: 607)の主張では不定詞には動作主動詞しか来ないということであったが、その場合、アフリカーンス語における(5)の構文を BUSY construction に分類することができなくなる。

さらに、Ebert (2000)が分類した BUSY construction は、他の構文と比べ明らかに核となる語に統一性がない。語の統一性を考慮すると、BUSY construction は以下の通り 3 つのグループに分けることができる。

表 4: 筆者が再分類した BUSY construction

	BUSY		
	ist in Fahrt / Gang mit (zu) INF	**is thereat to INF**	**is busy to INF**
スウェーデン語	er i färd med att		
デンマーク語	er i gang med		
西フリジア語	is oan ‘e gong mei		
ドイツ語		ist dabei zu	
チューリッヒドイツ語		isch draa z‘	
オランダ語			is bezig te

Ebert (2000)は BUSY construction と命名しているが、実際に busy が使われているのは、オランダ語の「is bezig te」だけであり、その他の構文では busy が使われていない。もし busy を使った構文であれば、例えばドイツ語であれば、busy に相当する beschäftigt が用いられている構文である「ist beschäftigt damit zu」の方が適当である。また、Ebert (2000)は、「ist dabei zu」を BUSY construction と分類している。しかし、この構文は、あくまで前置詞句進行形において他動詞と目的語が抱合できない場合に現れるものであり、もし抱合できるのであれば、「ist beim INF」として現れるため、BUSY construction とするのは誤りである。

このように、Ebert (2000)が BUSY construction として分類したものは、核となる語が均質でない点、そして動作主性・非動作主性の説明が不十分な点で問題が残る。本稿は、特に BUSY construction に注目し、実際に busy を使用する言語であるアフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語の 3 言語の進行形をみていく。

次節から、Ebert / Hoekstra (1996)と Ebert (2000)が分類した進行形の表を踏まえ、各構文の特徴をみていきたい。なお、本稿の調査対象とする言語はアフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語であるため、表 4 にある他の言語の迂言形に関しては、調査対象外とする。

3. 本稿における進行形の位置づけ

本稿では、Donaldson (1993)を参考に Ebert (2000)の迂言形的進行形の分類を改変し、3 つの構文に分類する。第一は姿勢動詞進行形、第二は前置詞句進行形である。これは Ebert (2000)に則るものとする。最後に、Ebert (2000)では BUSY construction と言われていたものの名を変え、述語形容詞進行形 (predicate adjective progressive)とする。Ebert (2000) で取り上げられている HOLD construction に関しては、アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語には存在しない構文のため、説明を除外する。

以下、3 種類の進行形（姿勢動詞進行形・前置詞句進行形・述語形容詞進行形）の概要を説明する。

3.1 姿勢動詞進行形

姿勢動詞進行形は、多くのゲルマン語に見られる進行形であるが、ドイツ語には存在しない構文である。アフリカーンス語では、「sit en INF」(dt. *sitzt und INF*)、オランダ語では「zit te INF」(dt. *sitzt zu INF*)となる。姿勢動詞 (postural / posture verb)を用いて、主語がどのような体勢で動作を行っているかわかるのがこの構文の特徴である。アフリカーンス語とオランダ語では、以下の動詞を用いて姿勢動詞進行形と

している。姿勢動詞進行形に用いられる定動詞は、アフリカーンス語とオランダ語で同様のものが用いられている。

afr. staan / sit / lê / loop / hang (*dt. stehen / sitzen / liegen / laufen / hängen)*

nl. staan / zitten / liggen / lopen / hangen (*dt. stehen / sitzen / liegen / laufen / hängen)*

人間の基本的な姿勢である「立っている・座っている・横たわっている」の姿勢を意味する定動詞を用いて進行を表す。また、動作を示す「歩く」や物体の状態を示す「掛る」に関しては姿勢を表していないが姿勢動詞構文として分類されている。アフリカーンス語とオランダ語の姿勢動詞進行形において、唯一異なる点は、不定詞の直前に来るものがアフリカーンス語では en (dt. *und*)となり、オランダ語では te (dt. *zu*)となることである。

(6) dt. Er lag auf dem Bett und las bis spät in die Nacht, ...

he lay-down on the bed and read until late in the night

彼はベッドに横たわり、そして夜遅くまで読書をしていた

Rowling (1998: 99)

(7) afr. Ernie en Hanna staan nuuskierig en luister.

Ernie and Hanna stood curiously and listen-INF

エルニーとハンナは物珍しそうに聞いていた

Rowling (2000: 174)

(8) nl. De rat lag nog steeds te snurken op Rons schoot.

the rat lay-down still to snore-INF on Ron's lap

そのネズミは相変わらずロンの膝でいびきをかいていた

Rowling (1998: 79)

ドイツ語では、(6)のように並列でしか述べることができないが、(7), (8)のアフリカーンス語とオランダ語では従属関係となっている。アフリカーンス語の姿勢動詞構文における en はドイツ語のように等位接続詞を用いた並列関係にみえるが、従属関係となっているのは Donaldson (1993)の以下の例から明らかである。

(9) afr. Hy het op die muur gesit en 'n Windhoek-lager gedrink.

he has on the wall sat-PP and a Windhoek-lager drunk-PP

彼は塀の上に座り、Windhoek lager を飲んだ

Donaldson (1993: 226)

(10) afr. Hy het op die muur 'n Windhoek-lager (ge)sit en drink.

he has on the wall a Windhoek-lager sat-PP and drink-INF

彼は塀の上で、Windhoek lager を飲んでいた

Donaldson (1993: 226)

(9)は en が等位接続詞として用いられている文例である。ここでは gedrink という過去分詞形が用いら

れている。その一方で、(10)の姿勢動詞進行形の文例では、過去分詞形を表す接頭辞である ge-が脱落する形となり drink が用いられている。もし、(10)における en が等位接続詞であるならば、drink において過去分詞形であることを明示する接尾辞 ge-が脱落していることは決してない。従って、この en は等位接続詞ではないことがわかる。

また、この構文においてアフリカーンス語・オランダ語ともに、無生物が主語として現れることができる。

(11) afr. Die biltong hang al en droog.[5]

the bintong hang already and dry-INF

そのビルトング(干し肉)は、もう干してある

Raidt (1983: 179)

(12) nl. Een vrachtwagen staat voor ons te lossen.

a truck stands in-front-of us to unload-INF

トラックが我々の前で荷を下ろしている

Lemmens (2005: 190)

姿勢動詞進行形をまとめると、以下の表の通りになる。

表 5: 姿勢動詞進行形

	sits to + INF	**sits and + INF**
アフリカーンス語		sit en INF
オランダ語	zit te INF	
ドイツ語		

3.2 前置詞句進行形 (prepositional progressive)

ドイツ語の「ist am / beim VN」や「ist dabei zu」に相当するものである。アフリカーンス語では、「is aan die INF」(dt. *ist an+DEF INF*)の形で、オランダ語では「is aan het INF」(dt. *ist an+DEF INF*)の形で用いられる。ドイツ語では、前置詞に an / bei の 2 種類を用いているが、アフリカーンス語とオランダ語では aan (dt. *an*)しか用いられない。Ebert (2000: 609) は、ドイツ語の「ist am / beim VN」において、am / beim の後は目的語と他動詞が抱合した形でしか現れることができない、と述べている。ドイツ語・アフリカーンス語・オランダ語では、動名詞と不定詞の形が同様である。(13)のドイツ語においては、目的語と動詞が分離することができないため beim の直後は動名詞となる。もし、他動詞と目的語を分解する場合、(14)のように「ist dabei zu + INF」となる。その際に、dabei は主節内部に置かれる。

一方、アフリカーンス語やオランダ語では、(15), (16)のように他動詞と目的語が分離することが可能である。目的語が分離することが可能であるならば、aan die / aan het の直後に来ているものは動詞の性質を

[5] Donaldson(1993)は、姿勢動詞構文に用いられる姿勢動詞に staan、sit、lê、loop の 4 つを挙げている。しかし、Raidt(1983)では、それ以外に hang も姿勢動詞構文として用いられることが出来ると述べている。ただし、hang はその他のものに比べて、稀な形であるとも述べている。

保持していることになる。そのため、アフリカーンス語とオランダ語における aan die / aan het の直後に来ているものは動名詞ではなく、不定詞となる。(15), (16)の前置詞句要素である aan die / aan het が置かれる位置は、(14)とは異なり不定詞の直前に来る。

(13) dt. Er ist beim Kartoffelschälen.

he is at+DEF potato-peeling-VN

彼はジャガイモの皮むきをしている

Van Pottelberge (2004: 201)

(14) dt. Alle waren dabei, das Essen zu verspeisen, das ihnen hochgebracht worden war.

all were thereat the food to onsume-INF that them brought-in been had

皆は持ってこられた料理を食べているところであった

Rowling (1998: 197)

(15) afr. Sy was 'n boek aan die lees.

she was a book at the read-INF

彼女は本を読んでいた

Donaldson (1993: 221)

(16) nl. Harry was eieren aan het bakken toen Dirk binnenkwam met zijn moeder.

Harry was eggs at the bake-INF when Dirk came-in with his mother

ディルクが彼の母と中に入ってくると、ハリーは卵を焼いていた

Rowling (1998: 19)

また、アフリカーンス語・ドイツ語・オランダ語の前置詞句進行形は、以下の(17), (18), (19)を見てわかる通り、無生物も主語として現れることが可能である。

(17) dt. Die Handtücher sind am Trocknen.

the towels are on+DEF drying-VN

そのハンカチは乾きつつある

Ebert (2000: 621)

(18) afr. Die lug is so blou soos vergeet-my-nietjies en daar is 'n gevoel in die lug dat die

the sky is so blue like forget-me-not and there was a feeling in the sky that the

somer aan die kom is.

Summer at the come-INF was

空はワスレナグサのように青く、そして夏が来る気配が感じられた

Rowling (2000: 145)

(19) nl. De industrie is dat probleem aan het overwinnen.

the industry is this problem at the overcome-INF

その産業は、この問題を克服しつつあるところだ

Haeseryn, *et al*. (1997: 1049)

Ebert / Hoekstra (1996: 94) の表 1・2 を踏まえた上で分類すると以下の通りになる。

表 6: 前置詞句進行形

	is on the + INF	**is on / at the + VN**	**is thereat NP to + INF**
アフリカーンス語	is aan die + INF		
オランダ語	is aan het + INF		
ドイツ語		1. ist am VN 2. ist beim VN	ist dabei zu + INF

3.3 述語形容詞進行形 (predicate adjective progressive)

述語形容詞進行形は、afr. besig / nl. bezig (eng. *busy*) を用いて進行を表す構文である。アフリカーンス語では、「is besig om te INF」、オランダ語では、「is bezig (om) te INF」で表現される。述語形容詞進行形の om (dt. *um*)に関して、アフリカーンス語では om が義務的である。その一方でオランダ語の述語形容詞における om は義務的ではなく、揺れが見られる。ドイツ語の「ist beschäftigt damit zu」も、busy を用いて進行を表すため、述語形容詞進行形として扱う。

(20) dt. Neville war gerade damit beschäftigt, sich daran zu erinnern, was er vergessen hatte, ...

Neville was just thereupon busy REFL about-it to remember-INF what he forgotten had

ネフィレは自身が忘れたことを思い出しているところだった

Rowling (1998: 160)

(21) afr. Hagrid is besig om tee te maak.

Hagrid was busy C tea to make-INF

ハグリッドはお茶を沸かしている

Rowling (2000: 77)

(22) nl. Hagrid was druk bezig om thee te zetten ...

Hagrid was busily busy C tea to prepare-INF

ハグリッドはせっせとお茶を準備していた

Rowling (2001: 87)

(20)のようにドイツ語の述語形容詞進行形では、mit が必要となる。その一方で、(21), (22)におけるアフリカーンス語やオランダ語の述語形容詞進行形では、mit に相当する(afr. / nl. 同形) met を必要とせずこの構文を用いることができる。[6]

---

6 ドイツ語のように met を用いる構文も一部存在している。その際は、「afr. *besig met VN wees*」、「nl.*bezig met (het) VN*」となる。

afr. Hulle is druk besig met vrugte pluk, maar Maandag was 20 werkers weens drankmisbruik afwesig.
they are heavy busy with fruits pick, but monday was 20 workers because-of alcohol-abuse absend
彼らは忙しそうに果物を摘んでいる、月曜に 20 人の働き手が深酒が原因で欠勤であったからだ。

Geleyn, Colleman(2014:63)

nl. Zuid-Laos is dag-in-dag-uit alleen maar bezig met overleven.

アフリカーンス語のこの構文は南アフリカの英語にまで影響を与えており、無視できない存在となっている。以下のように、南アフリカ英語では、「is busy 現在分詞」で進行を表す。

(23) SAeng. She's busy fighting with my dad now. Can she call you back later?
彼女は私の夫と喧嘩をしているところだ。後でかけなおしましょうか

Mesthrie (1999: 67)

(24) SAeng. The ball was busy rolling down the hill.
ボールが坂を転がっている

Methrie (1999: 72)

上記の(23)や(24)の例では、本来 busy は冗長な表現となる。しかし、南アフリカ英語では許容される。特に、(24)の例では、無生物が主語として現れることもできる。これは、主語の意味的制約が希薄になっているため、busy を用いた進行形の文法化が進んでいると言える。Ebert (2000)で分類されていた、述語形容詞進行形であるが、筆者が新たに整理したものをまとめると以下の通りになる。

表 7: 述語形容詞進行形

	is busy to + INF	**is busy with NP to + INF**
アフリカーンス語	is besig te INF	
オランダ語	is bezig te INF	
ドイツ語		ist beschäftigt damit ... zu INF

3.4 ゲルマン語における迂言形における進行形のまとめ

ここまで迂言形による進行形の概要をみてきた。まとめると以下の通りになる。

表 8: アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語における進行形

	姿勢動詞進行形	前置詞句進行形	述語形容詞進行形
アフリカーンス語	sit en INF	is aan die INF	is besig (met) te INF
オランダ語	zit te INF	is aan het INF	is bezig (met) te INF
ドイツ語	なし (並列表現のみ)	1. ist am VN 2. ist beim VN 3. ist dabei zu INF	ist beschäftigt damit ... zu INF

姿勢動詞進行形と hold construction に関しては Ebert (2000)の分析と同様のものとなる。前置詞句進行形に関して、Ebert(2000)は「dabei sein zu」を BUSY construction と分類していた。しかし、その構文は、前置詞句進行形において目的語と他動詞が抱合しない場合に現れるものであり、「ist am VN」や「ist beim

south-Laos is day-after-day only only busy with survive
南ラオスは日々存続しているのだ。

Geleyn, Colleman(2014:66)

VN」に類する構文と考えられる。さらに、他の進行形に見られた語彙面の類似性の観点からも、「ist dabei zu」を述語形容詞進行形に組み込むのは不適当である。

また、前節でも述べた通り、アフリカーンス語の述語形容詞進行形は、南アフリカ英語にまで影響を与えており、他のゲルマン語と比べると文法化が進行しており、多言語にまで影響を与える波及力がある。次節では、各構文間の使用頻度を、原文が英語である小説を引用しながら比較していく。

4. 各構文の頻度

本稿では、『ハリーポッターと賢者の石』と『ハリーポッターと秘密の部屋』の原文（英語）・アフリカーンス語訳・オランダ語訳・ドイツ語訳で用例を採取し、前節でみた進行形の種別頻度の比較を行った。用例を採取するにあたり、英語が原文であり、かつ幅広い言語で翻訳されている文献が必要であった。英語は、進行相を表現する場合に迂言形によって明示することが義務的となっている。アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語は、進行相を表現する場合に、迂言形によって明示することが義務的ではない。そのため、英語の進行形と本稿で対象とする 3 言語の進行形の頻度と比較することによって、どの程度文法化が進んでいるのかがわかる。また、英語で用いられている迂言形の進行形は基本的に 1 種類である。その 1 種類の構文から各言語に翻訳した例を採取することによって、アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語において、どの迂言形の進行形が用いられやすいか知ることができる。

表 9: 『ハリーポッターと賢者の石』における進行形の頻度(アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語)

	アフリカーンス語	オランダ語	ドイツ語
姿勢動詞進行形	29	18	
前置詞句進行形	10	4	5
述語形容詞進行形	**28**	**5**	**3**
合計	67	27	8

表 10: 『ハリーポッターと秘密の部屋』における進行形の頻度(アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語)

	アフリカーンス語	オランダ語	ドイツ語
姿勢動詞進行形	34	28	
前置詞句進行形	11	6	7
述語形容詞進行形	**37**	**7**	**4**
合計	82	41	11

表 11: ハリーポッター2 作品における 3 言語の構文の頻度(表 9 と表 10 の合計)

	アフリカーンス語	オランダ語	ドイツ語
姿勢動詞進行形	63	46	
前置詞句進行形	21	10	12
述語形容詞進行形	**65**	**12**	**7**
合計	149	68	19

前節で述べた通り、アフリカーンス語とオランダ語では、迂言形による進行形が 3 種類、ドイツ語では 2 種類ある。構文の種類を問わず、全ての進行形表現を集計すると、今回の調査の範囲内で、原文である英語で 1231 例、アフリカーンス語で 149 例、オランダ語で 68 例、ドイツ語で 19 例採取することができた。[7]あくまで今回の調査範囲内であるが、アフリカーンス語ではオランダ語やドイツ語と比べ、迂言形の進行形の使用頻度が高い傾向にある。アフリカーンス語では、姿勢動詞進行形と述語形容詞進行形が同程度用いられている。その一方で、前置詞句進行形は他の 2 種の進行形と比べ用例数が 3 分の 1 となっているため、あまり用いられない傾向にある。オランダ語に関しては、姿勢動詞進行形が前置詞句進行形・述語形容詞進行形と比べ、約 4 倍用いられており、この言語の迂言形による進行形は、姿勢動詞進行形が最も用いられやすいといえる。ドイツ語に関しては、全体の用例数が少なく、迂言形による進行形はほぼ用いられないといえる。

アフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語の 3 言語間の進行形では、どの構文においてもアフリカーンス語の進行形表現が最も多く用いられている。そのなかでも、特に述語形容詞進行形における差が顕著である。オランダ語の述語形容詞進行形が 12 例、ドイツ語の述語形容詞進行形が 7 例しかみられない。その一方で、アフリカーンス語の述語形容詞進行形は合計 65 例と非常に高い頻度でみられた。これだけ用例数が異なるのは、オランダ語やドイツ語と比べ、アフリカーンス語の述語形容詞進行形における文法化が進んでいるといえる。次節では、今回採取した用例を紹介し、アフリカーンス語の述語形容詞進行形における特徴を述べる。

5. アフリカーンス語における述語形容詞進行形

今回採取できたアフリカーンス語の述語形容詞進行形の用例は、表 11 の通り 65 例である。この 65 例中、無生物が主語として現れるものが見られる。主語に無生物が現れている例は、65 例中 7 例〔岩 (afr. *rots*)・車 (afr. *motor*)・耳 (afr. *oor*)・目 (afr. *oog*)・鼻 (afr. *neus*)・夏 (afr. *somer*)・痛み (afr. *pyn*)〕である。オランダ語やドイツ語では、無生物が主語として現れる例が 1 例も見られなかったため、これはアフリカーンス語の述語形容詞進行形にとって特筆すべきことである。以下に無生物が主語として現われているアフリカーンス語の例を示す。

(25) a. afr. Somer is besig om oor die kasteel se tuine te kruip; …

Sommer was busy C over the castle gen garden to creep

夏は城の周りに広がっていた

Rowling (2002: 172)

b. eng. Summer was creeping over the grounds around the castle; …

同上

Rowling (1998a: 197)

(26) a. afr. Selfs die pyn is besig om weg te gaan... (=5)

even the pain was busy C PRT to go

[7] 英語の進行形 1231 例中、『ハリーポッターと賢者の石』では 485 例、『ハリーポッターと秘密の部屋』では 746 例であった。

痛みでさえ引いていっている

Rowling (2002: 206)

b. eng. Even the pain was leaving him...
痛みでさえ、彼から引いていっている

Rowling (1998a: 236)

述語形容詞進行形において、南アフリカ英語でも無生物が主語として現れることが可能であった。アフリカーンス語のこの構文において、無生物が主語として多く現れるのは、南アフリカ英語のように、主語に対する意味的制限が弱いといえる。この点に関し、アフリカーンス語の述語形容詞進行形は、他のゲルマン語とは異なる独自の変化を遂げている。

また、アフリカーンス語の述語形容詞進行形に関して、主語に対する意味的制限が弱いほかに、besig (eng. *busy*)の意味が希薄化していることが上記の例から観察することができる。(25a), (26b)のような文は、文の意味から考えても besig (eng. *busy*)の語彙的な意味を持っているとは考えにくく、単なる進行を表すアスペクトマーカーとしてしか機能していないといえる。

(27) afr. Ons land is stadig besig om te sterf.
our land is slowly busy C to die-INF
我々の国はじわじわと滅びつつある

Bosveld Review(2015)

上述の例では、stadig (eng. *slowly*)を用いている構文である。もし、この構文における besig が、忙しいさまを表すのであれば、それとは対極に属する stadig が文中に現れることは決してない。それにも関わらず、この構文が用いられているのは、besig がもはや busy の語彙的な意味を持たずに進行相を表わすアスペクトマーカーとして機能しているといえる。さらに、この構文自体の頻度としても高い割合で現れているため、オランダ語やドイツ語と比べ、文法化が進んでいる。

6. 結論

本稿では、Ebert (2000)のゲルマン語における迂言形による進行形の分類を見直し、新たに述語形容詞進行形の分類を追加することを提唱した。特に Ebert (2000)の BUSY construction の分類に不備が見られたため、詳細に整理した。この述語形容詞進行形は、特にアフリカーンス語において文法化が進んでおり、主語の意味的制限が弱くなっている。また、アフリカーンス語の述語形容詞進行形では、besig の語彙的意味が希薄している。この構文の頻度がアフリカーンス語ではオランダ語やドイツ語と比べ、非常に高いことが明らかになり、この点においてもオランダ語・ドイツ語と比べ、アフリカーンス語の述語形容詞進行形は文法化が進んでいるといえる。今回は原文が英語の文献から得た用例であるため、翻訳者の影響で用例数が極端に偏った可能性も否めない。そのため、今後は原文がアフリカーンス語・オランダ語・ドイツ語の文献も見ていく必要もある。

また、今回は Ebert (2000: 637)が BUSY construction として分類していたスウェーデン語・デンマーク語・西フリジア語の構文に関しては扱わなかった。そのため、その構文に関して、現時点ではどの迂言形

の進行形に属すか不明である。今後は、その 3 言語の構文を調査し、どの進行形のグループに属すか検討していく必要がある。また、今回は意味的な面にほとんど触れなかったため、3 構文間での意味的差異については今後の課題とする。[i]

＜例文典拠＞

Bosveld Review (2015) http://reviewonline.co.za/90061/korrupsie-ons-land-is-stadig-besig-om-te-sterf/ (2017 年 11 月 1 日最終アクセス)

Joensen, Sofus, Næs, Martin and Samuelsen, Hanus A. (1983) *Føroyskar bókmentir 3 : í úrvali,* Føroya Skúlabókagrunnur, Tórshavn.

Rowling, J.K (1997) *Harry Potter and the philosopher's stone*. Bloomsbury Publishing PLC, London.

Rowling, J.K (1998a) *Harry Potter and the Chamber of Secrets,* Bloomsbury Publishing PLC, London.

Rowling, J.K (1998b) *Harry Potter en de steen der wijzen*, translated by Wiebe Buddingh', De Harmonie, Amsterdam.

Rowling, J.K (1998c) *Harry Potter und der Stein der Weisen*, translated by Klaus Flitz, Carlsem, Hamburg.

Rowling, J.K (2000a) *Harry Potter en die towenaar se steen*, translated by Janie Oosthuysen, Human & Rousseau, Cape Town.

Rowling, J.K (2000b) *Harry Potter en die kamer van geheimnisse*, translated by Janie Oosthuysen. Human & Rousseau, Cape Town.

Rowling, J.K (2001) *Harry Potter en de geheime kamer,* translated by Wiebe Buddingh', De Harmonie, Amsterdam.

＜参考文献＞

De Vos, Mark. (2001) Afrikaans verb clusters: A functional-head analysis, Master's thesis, University of Tromsø.

Donaldson, Bruce C. (1993) *A grammar of Afrikaans*. Mouton de Gruyter, Berlin.

Ebert, Karen H (1989) Aspektmarkierung im Fering (Nordfriesisch) und verwandten Sprachen. – In: W.Abraham, T.A.J.M. J (Hgg.): *Tempus – Aspekt –Modus*. *Die lexikalischen und grammatischen Formen in den germanischen Sprachen*, 293-322, Niemeyer (=Linguistische Arbeiten 237), Tübingen.

Ebert, Karen H (2000) Progressive markers in Germanic languages, In Dahl Östen ed. *Tense and Aspect in the Languages of Europe*, pp.605-653, Mouton de Gruyter, Berlin.

Ebert, Karen H and Hoekstra Jarich. (1996) The progressive in west frisian and north frisian: similarities and areal differences, *Nowele* 28-29, pp.81-101.

Geleyn, Tim and Colleman, Timothy (2014) De progressieve constructies bezig zijn en besig wees: een contrastief corpusonderzoek Nederlands – Afrikaans, *Tydskrif vir geesteswetenskappe,* 54(1), pp.56-74.

Haeseryn, W., Romijn, K., Geerts, G., de Rooij, J. en Van den Toorn, M. G. (1997) *Algemene Nederlandse Spraakkunst DEEL 2*, Martinus Nijhoff, Groningen.

Lemmens, Maarten (2005) Aspectual posture verb constructions in Dutch, *Journal of Germanic Linguistics,* 17(3), pp.183-217.

Lockwood, William B. (1977) *An introduction to modern Faroese,* Føroya Skúlabókagrunnur, Tórshavn.

Methrie, Rajend (1999) Syntactic Change in Progress: Semi-Auxiliary busy in South African English. *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics,* 6(2), pp.63-76.

Raidt, Edith H. (1983) *Einführung in Geschichte und Struktur des Afrikaans*, issenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt.

Van Pottelberge, Jeroe1n. (2004) *Der am-Progressiv*, Gunter Narr, Tübingen.

[i] 略号：afr: アフリカーンス語 eng: 英語 dan: デンマーク語 dt: ドイツ語 feröö m：北フリジア語フェリング・エームラング方言 fr: フェーロー語 fry: 西フリジア語 nl: オランダ語 SAeng: 南アフリカ英語 swd: スウェーデン語 züri: チューリッヒドイツ語 ART: 冠詞 C: 補文標識 finV: 定動詞 GEN: 属格 INF: 不定詞 P: 前置詞 PART: 現在分詞 POS: 姿勢動詞 postV: 姿勢動詞 PP: 過去分詞 PRT: 不変化詞 REFL: 再帰代名詞 VN: 動名詞